

第 1 1 回 小諸市長期学校改築計画検討会 議事概要

日 時：平成 29 年 11 月 22 日（水）19:00～20:20

場 所：小諸市役所 3 階 第 1 会議室

【出席者】

委 員 11 名（欠席者 大塚委員、尾芦委員、山口委員、市川委員、福田委員、大池委員）

事務局 5 名

【日 程】（進行 3 は副座長 他は教育次長）

1. 開 会
2. あいさつ 渡辺座長、小林教育長
3. 提言内容の骨格について
4. その他

第 1 2 回 日時：平成 29 年 12 月 14 日（木）19:00～
会場：市役所 3 階 第 2 会議室

第 1 3 回 日時：平成 30 年 1 月 17 日（水）19:00～
会場：市役所 3 階 第 1 会議室

6. 閉 会

【会議録】

冒頭の座長あいさつより

座長：今回は小中一貫についてですね、個々に意見を出していただいて活発に議論が行われたかと思います。今日はその提言する骨格について案を出してみましたのでまた意見交換をお願いします。時間があれば肉づけの部分も思いを述べていただきたいと思います。

3. 提言内容の骨格について

副座長：今回はたくさんご意見いただきましてありがとうございました。前回出席されなかった方が今日たくさん出席いただけると共通理解を深めていくことができるかなと期待しておりましたが…。

最初にですね、もう一度確認します。私たちがたたき台という言葉の認識についてですけど、この間の報告会の折にももう少し具体的なたたき台を出してほしいという意見もあったわけですけども、まとめていくときには総論という形でまとめていくことになりまして、それが我々に課せられたたたき台としての位置づけであるというように考えていきたいということを確認しておきたいと思います。

今日そこに提言内容の骨格ということで三つお示ししてあります。1、2 については大きな方向性についてはこれまで確認してきたことですので、あとは言葉の吟味を最終的にしていくということが大事になるのかなと思います。3 番の小中学校の配置および校区についてですが、特に小中一貫教育制度をどうするかということについて、前回皆さんからご意見をお聞きしましたので、このところではまず、3 番の二つ目の黒丸について総論としてこの方向でいいかどうかということ、皆さんのご意見をいただきながら、最終的に共通のものになると思います。総論ということでまとめてみますと、こんな言葉でどうかなと。3 番の二つ目の黒丸を見てください。「学校建て替えの際には小中一貫教育制度のあり方についても検討する」ということで小中一貫教育制度についても門戸を開けておくと、今後も小諸市らしい方向性が見つかるのであればその方向で進めていってもらいたいということをこのところに願いとして残しておくということでこの言葉にまとめてみたわけですが、まずこのことについてご意見ください。

委員：最初から私は小中一貫制度について言ってきましたので、これで入れていただけるということはとてもいいことだと思いますので、これで結構だと思います。

委員：私も一貫校はいいと思っているので異論はないです。

委員：「～についても」の「も」が生きてるんだね。

副座長：「も」を大事にしたいということですね。あくまでも学校建設が主であって、そのときにこれも検討するという、この小諸市の長期学校改築計画というのが主だからね。「学校建て替えの際は」でいいですか？それとも「再編の際は」という文言もあります。

座長：結局会議の名前が「長期学校改築」という建設の名前ですからね、それでこういうふうになっているんだと、そういうわけですね。学校の編成という言葉にしてもまあ同じことになるんですけどね。小中一貫のまとめてこんな感じですか？

委員：建物を建て替えないで、何かものを進めるときは小中一貫制度のことは検討されないということになっちゃうんですか？

副座長：なるほどね、建物を建て替えがない場合ね。

委員：建て替えないとすればそういうことですよ。なので再編とかの方が私はいいと思います。

委員：その部分は全部取って、「小中一貫教育制度のあり方についても検討する」でいいのかなと。建て替えとかそういうのを抜きにしてこれから検討に入りますよっていう、視野には入れていきますよっていう感じで。

副座長：今意見が三つ出てきてます。「再編の際には」とその部分は全部なしということ。いかがですか。

副座長：いかがでしょうか、その方向でよろしいでしょうか。

委員：導入することを前提してるのかなって。私のイメージの中では導入も含めてという解釈でいるんですけど、その辺はどうなんでしょうか。

座長：導入の是非を含めるとか、導入の可否というやるかやらないかも入れてってこと

だね。

委員：はい、導入やあり方についてだったらまだわかるんですけど。この「も」っていうのはそういう意味ですよ。導入っていう言葉があればすっきりというかいかな。あり方だけだと前提になってる感じが強いかなという気がするんですけど。

座長：導入の是非を含めて検討するということかね。

委員：そうですね、それも含めてあり方っていえはあり方だっていう解釈もできるんですけど。

副座長：小中一貫教育の導入も含めて検討するということですかね。

座長：でもいつからやるかがね、すぐやるってことかね。今後ってことを最初につけるかどうか。中間報告会では当面は困難であると、だけど今後検討を進めてくと、そういうふうに報告してあるからね。

委員：先ほどの学校建て替えの際にはまたは再編の際にはって言葉を抜いてしまうと、今も話しがあったように、先にいつまでも伸ばしてもいいような文章になってくと思うんですよ。これは言わないつもりでいたんですけど、長野県の教育について厳しいことを言う長野県民教育新聞のところにね、厳しい記事が載ってましたのでここで紹介させていただきます。「不登校は長期化傾向、県教委の本県の状況、高い小諸市の不登校比率」とこういう文章があります。この最後の方に小学校で最も高いのは北佐久郡で2.91%。以下、上水内郡の2.49%、小諸市の1.79%と続く。中学校は小諸市が最も高く7.31%。このほか諏訪市、飯田市、岡谷市、松本市、木曽郡が5%を超す高さになっている。とこういう文章を見ましてね、そんなに悠長にのんびりとしてられないのでは。計算をしてみました、中1ギャップと思えるのが5.52%の差があるわけですよ。というようにところも考えて、学校建て替えの際にはまたは再編の際にはという言葉は入れていただいてやってっていただかないと、小中一貫教育は曖昧なままになっていってしまうと思うので、これはぜひ入れてもらいたいと思います。このことは言うつもりはなかったんですけど、どうも曖昧な方へ行きそうだったのでやはり中1ギャップを解消するためにはいいと思いますので、言わせてもらいます。

副座長：中学校の現状はどうか。

委員：不登校が多いっていう現実は大きな課題だとは思っていますが、小中一貫にしたからって不登校が減るとは私は思えません。だからその不登校の減少のために小中一貫校にするとしたら違うと思います。それだけが原因じゃないと思います。

委員：それにつきましてですね、この間こんな意見がありました。小学校の先生にわからないところを聞きたいと、そうすることによって頼れる先生がいる、中学校行くとクラス担任でも教科を1教科くらいしか教わらないからそんなに話す時間もない、小学校の先生と話することができるということを言われました。そういうことも考えますと、やっぱり別々の分かれた校舎でやる併設ではなくて、ちゃんと一貫でやっていくという方がいいと思います。

委員：この建て替えっていう言葉を抜いて、より一層早く検討していただきましょうっ

という言葉に変えていった方がいいと思います。だから小中一貫教育制度を速やかにやってもらいましょうという言葉で表現する書き方でいくと、「小中一貫教育については少子化に伴って小諸市にあった計画を速やかに立てていただきたい」という言葉にして、建て替えと同時進行で考えてくださいよって、小諸市にあった小中一貫教育を考えてくださいよっていう、強気にこの案を出していいなら作ってくださいって強めの言葉でもいいのかなって。

副座長：それなら期限を決めた方がいいってこと？例えば「再編を進める際は」とか入れると、うやむやではなくなりますよね。

座長：導入の可否を含めてってのとはちょっと違うね。できるだけ早く、さっきは速やかになんて言葉も出たけど。

委員：この間ちょっと学校教育関係の話し合いがあって、中学校へ行きたくないっていうような子とか、不登校の子とかの話が少し出たんですけど、本人しかわからない学力の遅れ、ちょっとわからないなってなったときに「わからないからいいや」だとかどんどん遅れてって、昔なら「わからないから教えてよ」だったけど、今の子どもたちは聞くのも恥ずかしいって子どもが増えてきてるんですよ。なのでそれで学校に行きづらくなっちゃう子もいるかもしれないし、そういうだけの理由じゃない子もいるかもしれないし、教育面に関してだとこの一貫校の言葉は捨てたくないなという気持ちでいるので。

委員：建て替えという言葉は私もいらないと思います。

委員：この会の名称の長期学校改築計画っていうことは、新たに学校を建てる、建て直すって思って自分は来たんです。それで背景に何があるかっていうと、特に小学校の校舎の老朽化、それが進んでるので新しい学校を作っていくことを見通さなければいけない。その時にこの少子化っていうものが絡んできて、これから小諸市全体としてどういうふうに学校を再編してくかとかって思った時に、新しく作るってことが前提なんじゃないかなって思ったんですよ。だから建て替えをしようっていう考えでこの話し合いをしてるんだから、建て替えて言葉はなくてもいいかなって思ったんです。

委員：そうするとちょっとおかしいことじゃないですか。あの時に全部の学校を整備すると体育館を除いて 101 億円だか 102 億円掛かりますと、ですからこのままそっくり 6 校の小学校を改築していくことは財政的に無理だから、あの時、財政の方が来て、学校再編の上でということも考えていただきたいということでお話があったはずですよ。ですから、ここで建て替えないからどうのこうのというのはちょっとおかしい話じゃないかな、建て替える場合にはこれだけ掛かっちゃうから、そんなに掛けないようにして長期再編計画を立ててくれとそういうお話があったはずですよ。財政の方からね。確かあの時、101 億だか 102 億だと。ですよ。そういう金額が示されていますよね。その中には体育館は除くと書いて、ちゃんと言ってましたよね、あの時。校舎のみでそれだけ掛かるからと、そういうお話がありました。

副座長：だから現状のままでいくならばってことだね。

委員：じゃあ建て替えるならって言葉、必要ってことだよな。

副座長：だから実際に建て替えも再編も含めてっていうことになれば、新しく造るってことは可能になるかね。そうすると具体的には？

委員：だから今のその議論、今の校舎を建てる建てない、っていうことは、それを前提に話し合っちゃうと違ってくるのかなあという気するんですけど

副座長：もう話し合ってはきてるのよ。あとは最後の文言をどうするかなのよ。だからこれまでそういうことについては十分に話し合ってきているので、そうするとこの文言を今の学校の建て替えの際にはというような、これはもう学校改築の長期改築の話し合いで進めてきているのでここはなくてももう話が通るということならば、もう小中一貫教育制度のあり方についても検討すると、ここのところで一項目、ぼんとここのところに残しておくということでどうかという、どうですかね。

ただ私どもも、ここのところでずっと話し合ってきたのは、お金がないからっていうのは横に置いておいて、考えてみましょうと。あくまでも子どもたちの未来のために、だから小中一貫制度も必要なのかわかっていうことで考えて、そういう前向きな姿勢で私どもも提案していく、提言していきましようってことで、で、やっぱり財政云々というように言うと説明会の時もあったが、市民の皆様も言ったんだけど、結局、財政が足りない緊迫しているからだめなんですよ、ということ言ってしまうと、そうすると本当に結論ありきじゃないかということになっちゃうんですね。じゃなくて、本当に子どもたちのために私たちはどうするのか、っていうことで話をしているの、これからの子どもたちのために、やはり小中一貫教育制度というのは検討していってもらいたいということで残しておくという。

委員：そういう言葉で置き換えればいいんじゃないか、学校建て替えを。

座長：2番の方のね、小学校の規模というのをやれば、これは自然に統廃合は出てくるわけ。それが出てくると学校の建て替えも出てくるわけ。

副座長：なのでこの小中一貫教育制度のあり方についても検討すると、この文言で残しておくということでよろしいですかね。はい、これについてはそういうことで。

座長：「小中一貫制度のあり方についても検討する」でいいですね。それで皆さんよければいいやね。

副座長：どうですか。

委員：いいです。つい、じゃあ現実問題的にはどうだとか、こう考えちゃうからいけないんですよ。建て替えってことを前提にしたら現実的にはどういうふうになるのかなあとか、つい余計なことを言っちゃう。

委員：これは進めるか止めるかって考えればいいんですよ。これを止めますかっていうのと、これを進めていってもらえますかって言い方だけなんです。

副座長：はい、よろしいですかね。ありがとうございます。それではですね、もう一度、全体に戻りたいんですが、その前に3番目のところにもう一つある、地域の担う役割、この前の説明会のときに出された意見をこのところで私どもとしても、今後の地域を含めた教育をどうするかということで考えていったときに、やっぱり大事にし

ていこうということで残していたんですが、学区編成のことについてです。いかがでしょうか。区の中で学校が複数校に分かれることのないよう学校編成と合わせて通学区の見直しの検討もすると、これでよろしいですかね。はい、これはそういうように入れるということをお願いします。それでは前回進めてまいりました 3 の内容についてはそういうことにしたいと思います。

それでもう一度、文言の確認をこれから、とくに 3 番はしましたので 1、2 についてもう一度確認をしていきたいと思います。まず 1 番目のことについてです。少子化の進展に対応した小中学校のあり方としては、未来に生きる小諸市の子どもたちのために学校教育の変化や多様な子どもの教育的に対応できる学習環境を整えるというようにしました。そういうことでこれからも未来の子どもたちのためにということで学校教育のあり方をそういう視点から更に再編等にわたっても考えていきたいと思っています。よろしいですかね。

2 番がちょっと文言が以前より変わっているところがあるので、そのところを検討していただきたいのです。小学校の規模として 1 クラス 20 人～30 人前後、これは同じです。次なんですけど 1 学年、これを少なくともという言葉を入れたんです。で 2～3 クラス以上として、改めて読んでみるとちょっと、少なくともと以上とするというのが言葉尻がちょっと合わないかなっていうように思いながら今ちょっと見たところなんですけど。少なくともというように入れたのはですね、おそらくもし再編というようになると 2 クラス 3 クラスよりも 4 クラスという場合がでてくる、最初はね、だんだん 2 クラスになっていくと思うんですが、最初は 4 クラスくらいになってしまふ可能性がある、ということで考えたときに 4 クラスじゃないかと、だったら 2 クラスの学校に分けた方がいいという意見も出かねませんので、少なくとも 2～3 クラス以上というように、このところでは少なくともという言葉を入れてみたということです。この言葉をちょっと検討していただきたいです。少なくともが入ると以上がなくても意味は同じになりますよね。少なくとも 2、3 クラスがあったらそれ以上ということですので、以上なくても意味が同じになりますよね、だから以上はいらないでしょうね。

委員：もう一度確認させてもらいたいです。少なくともという言葉は再編成をにらんでの捉え方ということでしょうか。

副座長：はい、そうです。

委員：これをもうしなきゃもういけなくなってきていると、全体の印象の中でね。ここを強調したいという意味合いという捉え方でよろしいです。

副座長：再編を考えたときにつけてことで、そういうことになります。

委員：これを入れると強くなるよね。

副座長：そう、強くなりますね。もう各家庭できっと見られてると思いますが、教育委員会の方で家庭にお配りした中にこの表が入ってきていますよね。ですからこれを見てもう少なくともそういう状況に再編が必要な状況になってくというのはもう明らかであるという資料を市民の皆様には提案してあるので、そういうことになればもう

ここに示したことで、私どもも再編が必要であると判断したということを前回の中間発表のときにお話ししましたので、このところで、それを明確にしていくと、今後、再編の委員会を作っていただいて、そちらの方で進めていただきたいという思いを込めて。前回の説明会のときにそういう意味で私どもは必要な状況と判断したということにしましたけど。どうでしょうか、よろしいでしょうか。

ここで一つの学校を名指しするってことではなくて、2022年には今の状況だと1クラスになる学校が2校あると、こういう状況を見たときに再編が必要であるということですから、そういうことです。なぜかっていうと、これから進めていってもすぐにできることではないんです。6年7年8年とかかかってしまうので、だから今から話を始めてもここに出ている子どもたちには間に合わない状況が考えられますよね。だから少なくとも2021年以降は4校は厳しい状況になっていくという判断のもとにやってことですよ。決して一つの学校を名指ししているわけじゃないです。

それではまだ時間がありますので、先ほど座長のほうから提言の肉付けの話がありましたが、これは骨格ですのでここに肉付けをしていくんです。提言というのは市民に公表されますよね。それを読んだときに結果だけ見るといったい不満が出てくると思うんですが、命令についてはなかなか人は納得できない。でもその命令の裏にある背景や状況を理解することで納得できるということがよく言われるわけです。ですから私が説明した時に今こういう状況なんだということを一番最初に説明して、だからこういうことが必要なんだというふうにしたんですけど、そういうことで考えると、私ども「これからの子どもたちのために」という言葉をいつも最初に付け加えていたんですけど、なんかそうしたことによってですね、肉付けしたい言葉がありましたらどこからでもいいですので、出していただきたいわけですが、いかがですか。

委員：ちょっと不思議に思っているんですが、命名が改築検討会という中で、当初の建て替えが先の話があって、財政課の話があって中身を見てきたというわけですが、その辺の文言は無しでもよろしいのでしょうか。例えば予算の要求をしているとか専門家の診断をしてもらっているとか、そういう言葉を入れる必要はないのでしょうか。

副座長：建て替えの話は、今6校を作り直すと101億円かかるとかそういう財政上の話ですよ。それをこの中に載せてきたらどうかってことですよ。

委員：金銭的なことを書いちゃうと、説明会のときにお金がないから建てないのかっていう言葉がまたぶり返しちゃうと思うので。

委員：もちろんそれもあると思うんですけど、出てきた会議が改築検討委員会だから、建て替えるかと思って楽しみにしてきたっていう意見が出ましたね。そういったとらえ方としてその項目がここにその言葉が入っていないというのはいかがなものでしょうか。どこどこへ依頼している途中とか、建物も50年も経っているわけですから専門家の診断のことなんかも入れておいた方がいいんじゃないかと思ったわけです。

副座長：今何かそういう動きはあるんですか。校舎の状況や長寿命化にこのくらいかかるっていうような試算みたいなのは。

事務局：そういう物理的な裏付けについては最終的にはきちんとしたものを作らなけれ

ばいけないと思っ​ていま​して、具体的にはさ​っきの公共施設管理計画の一環で学校施設の部分だけにはなりますが、長寿​命化の計画を来年度を目途に専門家に分析してもらいながら作らなければいけないなと考​えています。

副座長：それはこれからのことですね。その他はいかがでしょう。具体的にこれまでの話し合いの中で出てきたのは、様々な子どもたちがいるのできめ細やかな継続的な支援がこれからの教育には望まれるっていうようなお話もいくつかあったような気がするんですけど、そういう意味で学校がそうした機能を持​ててく必要があるとか、しかも継続的にそうした子どもたちを継続的に見れるとか支援をしていける学校づくりをしていかなければという​ようなこと​も入れていいのかなとも思いますが。

座長：多様な子どもたちへの教育的ニーズってとこだね。

副座長：そうです、そこの裏付けとしてね。だから例えば障がい児教育とか外国語教育とか地域のとかってこと​も出てくるってことか​ね。そんな具体的に入れなくてもいい？

- ・多様な教育的ニーズでそれが全て含まれているのかなって考​えていた​ので…。

副座長：そうです、ただそれも含めて結論として教育的ニーズってしておくとかね。

- ・私たちは話し合​てきたので、この教育的ニーズっていうのは障がい児とかも含まれてるってことがわかりますけど、そういうニュアンスの言葉は入れた方がいいんですかね。

副座長：前文としてそういうことをちょっと入れといて、結論としてこの文章になるとかね。

- ・報告会でも養護学校のこととかも考​えていただ​いてありがたいという言葉もいただいたんですけど、一般の人たちにわかるようにするには、このニーズもそうなんですけど、支援みたいな言葉は入れた方がいいのかなって。

副座長：この教育的ニーズの少し具体的なイメージできるものを、その前に言葉であると教育的ニーズって言葉が、市民に提言の内容として本当にこれだけだと骨だけですよ​ね。

座長：例えば具体的な例を入れるかどうかってことだね。国際化とか情報化に対応するとか、それから学習支援などの教育的ニーズとかね。

副座長：まあそんな感じですよ​ね。それで結論としてこの一文を入れるってことですね。

座長：統廃合が生じた場合、必要性が生じた場合には通学の困難な…

- ・確かに座長さんが言うように遠距離通学に対する配慮ってのは必要かもしれないですね。再編にあ​つては遠距離通学に対する配慮をしてくださいっていうことは必要かと思​いますけど​ね。負担が親に全部かか​たら困りますからね。

小林昭：3番目のところに学校再編と合わせてって出てくるんだけど、学校再編が必要であるというのは2番を見ればわかるというか暗黙の了解でわかるということになるんですかね。それを受けて初めてここで学校再編という言葉が3番のところに出てくるんですかね。学校再編は必要であるみたいな言い方はど​っかでし​ちゃまずいんですかね。

副座長：いや、そんなことはないです。

座長：2番で1クラス20～30人前後、1学年少なくとも2～3クラスを基本として、再編を考えていくと、再編について検討していくとか、2番はそういうふうにしていかなければいけないかもしれないね。この二つを基本としてってくらいにしてね。

副座長：むしろ基本としたときに、今後の児童数の推計を見ると再編が必要な状況になってくるというような言い方ですかね。

座長：そうそう、そういう言い方でもいい。

山浦：はっきり言っちゃったほうがいいかもしれませんよね。私がしつこく伺ったのは、統合を予想されての「少なくとも」の言葉なんですかと言ったんですがね。肉付けっていう意味でははっきりここで方向性という意味でもはっきり言った方がわかりやすいですよ。まあいろいろな意見はありましたけど、それしかないのかっていう意見もありましたけど、ここで言った方がすっきりするかもしれませんね。

副座長：中間の報告では言っていますので、言って差支えないと思いますのでそれは入れる方向でってことですね。

座長：肉付けにこういうこともってのがあれば出しといてもらった方が、次回がよりスムーズに進みますから。特に3番の上の「区の中で別の小学校に行ってる」って、これは非常にまずいことで、これを解消するってことはうんと地域を大事に考えることにつながると思うんです。中間報告会で地域のことがいっぱい出てきたけど、これを複数の学校に通わせてるっていう地区や地域は本当に大変だと思うんですよ。それを解消するってことは地域と学校のつながりを一層強くするなとそんなふうに思ったんです。

副座長：行事やお祭り等のとき学校が分かれてることによって、やりにくいっていうのはあると思いますね。

座長：うちの区でこういう行事をやりたい。でもこっちの学校は休みだけどこっちの学校が休みじゃないとかそういうふうになっちゃうこともあったりしてね。それがこれを解消する地域を大切にする案だなと思うんだけどね。

副座長：そうですね、これからますます地域が子どもを育てていくという理念が大切になる時代だからこそですよ。そんなこともちょっと入れてもらってね。じゃあよろしいでしょうかね。

座長：じゃあ次回肉付けの案を出していただくということで。